平成３０年第１５回教育委員会会議

平成３０年１１月６日

午前　９時２８分　開会

１　開会宣言

○葛西教育長　ただいまから平成３０年第１５回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長　教育施設課長ですが、現在、現場に出ておりまして、おくれて参集させていただきます。

以上です。

○葛西教育長　傍聴者はお見えですか。

○川喜田教育総務課　傍聴者はおりません。

２　会議録の承認

○葛西教育長　さきにお渡ししております平成３０年第１０回から第１２回の会議録について、何かございますか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○葛西教育長　それでは、承認といたします。

３　会議録署名者の決定

○葛西教育長　それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、渡邉委員と加藤委員とでお願いしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○葛西教育長　ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

４　議事

○葛西教育長　これより議事に入ります。

本日の議事は、議案１件、報告事項２件ですが、議案第３２号、四日市市就学支援委員会条例の一部改正についてと、報告事項の平成３１年度当初予算要求の概要については、市議会等での審議・検討事項であるため、非公開で審議する必要があると考えます。また、報告事項の平成３０年度全国学力・学習状況調査結果の分析については、非公表の内容が含まれるため、一部を非公開にて行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員の皆さん、ご異議はございませんね。よろしいですね。

（「異議なし」の声あり）

○葛西教育長　ご異議がないようですから、後ほど非公開にて審議いたします。

（１）報告

１　平成３０年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

○葛西教育長　それでは、報告事項、平成３０年度学力・学習状況調査結果の分析についての説明をお願いいたします。

○高橋指導課長　それでは、全国学力・学習状況調査の結果の分析をさせていただきます。冊子をごらんください。

まず、１ページ目、２ページ目をごらんください。これら全ての教科・領域において、全国平均以上、または同等の結果であったということでございます。また、無解答率、これは右ページのところの真ん中のグラフでございますけれども、各教科の無回答率の平均が小・中学校とも全国平均を下回ってきております。見ていただきますと、右肩少し下がりというような形で、無回答率は減ってきております。今年度、国語、算数ともにですけれども、２７年度に６年生であった子のグラフをごらんください。一番上のグラフでございます。折れ線グラフです。そこから３年後、中３になります３０年度ということです。その６年生時の結果では、国語が、Ａが２．７ポイント、Ｂが１．２ポイント、平均を下回っていましたが、３年間で学力を向上させることができました。数学においても、中学校３年生の小学校６年生時の結果では、算数Ａが１．１ポイント、算数Ｂが１．６ポイント下回っていたことから、３年間で学力が向上したということがわかります。理科においても同様に、中学校３年生の小学校６年時の結果では１．７％平均を下回っておりましたけれども、今回は平均以上というような形で改善されております。

３ページからは、教科別正答数分布グラフになっております。小学校の国語Ａ・Ｂ、算数Ａ・Ｂ、理科、そして、教科別の次は中学校の各教科、国語から理科というふうになっ

ております。

９ページをごらんください。９ページは、校種、それから、教科別調査結果の概要です。小学校国語の（１）をごらんください。ここは学習指導要領の領域別、それから、問題形式ごとの平均正答率というような形であらわしてございます。左側の表ですけれども、こちらが領域別、例えば国語であると話すこと、聞くこと、書くことというような領域に分かれております。それを全国平均と比べております。そして、右側は問題形式ごとです。選択形式のもの、それから、短答式、それから、記述式というようなもので全国平均と比べております。そして、（２）におきましては、それぞれの設問の中で、正答率が全国平均よりも５ポイント以上高いものが二重丸、それから、２ポイント以上高いものが一重丸、２ポイント以上低いものが三角の下印、５ポイント以上低いものが三角の黒というふうな形で、各教科、小学校の国語、算数、理科というふうになっております。

訂正されたものは行っていますでしょうか。１０ページの算数Ｂの問題形式ごとの一番右下のところなんですけれども、４５．９となっておりますが、これは５１．５になります。というのは、この表でいきますと、左側の領域ごとの全国の最後の全体というところの数字と、この問題形式の全体という数字が一緒にならなくてはなりません。ですから、算数Ｂの領域等のところの５１．５が、こちらでは４５．９になっておりまして、これは入力ミスです、申しわけございません。こちらも５１．５に直してください。

１１ページをごらんください。小学校理科でございます。（２）の一番下のところ、理科の４の（３）食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶというところですけれども、ものを水に溶かしても全体の重さは変わらないということ、こういうようなところが弱いと。５ポイント以上低いというようなところでございます。質量保存というような部分の学習でありますけれども、前回「学んでＥ―ｎｅｔ！」のところで見ていただきました、ああいうようなものとも少しリンクをさせながら、ああいう問題をつくってございます。

１２ページからは、先ほどの中学校の部分になります。中学校はおおむね良好ということで、それぞれのところで成果が出ていると考えます。ただ、１２ページのところで、２ポイントから５ポイントの間で低い部分がございます。このような部分も、読解力であったりとか、論理的思考というような部分も含めて、取り組みを進めていきたいと考えております。そこからずっと数学、理科というふうになってございます。

１６ページでございます。ここは各質問紙の調査結果から見えてくることということで、そこの一番上のところにグラフの見方というのが書いてございます。大体４つで回答する

ようになっております。一番左の濃い部分が「そう思う」とか「当てはまる」という、それからだんだん右側に行きますと、４の部分では「当てはまらない」、「そう思わない」というような回答方式になっておりますので、そのような形でグラフをごらんください。

まず、児童・生徒質問紙の経年変化及び学力との相関関係というところでございます。１７ページの上から３つ目、「学校の授業時間以外にふだん（月曜日から金曜日）１日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか」というような設問でございますけれども、このグラフと、右側の、これは正答率をあらわしたものですけれども、やはり全く家庭学習をしないというような子は４１．３％で、１時間から２時間、ここより上となるとほぼ変わらないんですけれども、これぐらいの子とは２０ポイント以上差が出てくるというようなところです。中学校においても同じように、全くしないという子はやはり４８．４の正答率でございますけれども、１時間から２時間という子になりますと６５の正答率ということで、やはり１時間から２時間ぐらいの量、それから集中力というような部分はとても大事であるということがうかがえます。

今後なんですけれども、全国平均とか同等とかということで上回る結果ではありましたけれども、今回の新学習指導要領の求めている主体的・対話的で深い学びであったりとか、本市が目指しております問題解決能力というような部分の育成を今後も目指していきたいと考えております。

２１ページからは算数・数学に関する設問でございます。

２３ページをごらんください。２３ページの丸の上から３つ目でございます。「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書きますか」というような部分でございますけれども、ここが、見ていただくと、上が全国平均、それから、次が３０年度、そして２９年度、２９年度の中学校を見ていただいて３０年度を見ていただきますと、ここで９．６ポイント下がっております。授業中の中でやはり説明を聞いて理解するだけでなく、自分の考えなどを論理的に書く活動を今後も確保していく、そういうような授業にしていくというようなところが大事であると考えております。

それから、２４ページからは理科でございます。これは２７年度との比較にもなるんですけれども、２５ページの上から２つ目の丸です。「理科の授業内容はよくわかりますか」というような部分ですけれども、小学校で２．７ポイント、それから、中学校で１．８ポイント上がっているというようなところでございます。

それから、２６ページの一番下の丸でございます。「理科の授業で観察や実験の結果か

らどのようなことがわかったか考えていますか」というところは、比較すると、小学校でも中学校でもポイントが上がっているということがうかがえます。ほぼ全ての項目において、平成２７年度よりも肯定的な割合が高くなっているということがうかがえるとは思いますけれども、全国と比べると、やはり最も肯定的な回答をしたものと比べますとまだ下の部分がございますので、このあたりは今後も観察や実験等を通した体験的に学ぶ授業を積み重ねていくと。また、自分たちで予想を立てたり、見通しを持って観察や実験をしていく、そして、それをまとめるというようなことが重要になってくると考えております。

それから、次、２８ページからは基本的生活習慣の部分でございます。やはりここからは、こういう上記の項目と学力との相関関係と、これはもう毎年出ていることですけれども、当たり前のことですが、やはり基本的な生活習慣が確立されているという子の学力は高いということが言われております。ただ、本市においては、朝食を毎日食べていますかとか、同じぐらい寝ているかとか、同じ時刻に起きるかというのが、昨年度と比較するとやや下回っております。特に「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか」というようなところは、小学校で５．１ポイント、中学校で８ポイント下がっているというようなところでございます。子どもたち、習い事であったりとか、いろいろ忙しい部分もあるかとは思いますけれども、スマートフォンの普及とかパソコンとか、そういうＩＣＴの部分もあってかと思うんですが、就寝時刻が不規則になっているということが考えられます。このあたりは、１つはやはりスマートフォンの利用というところで、今後も家庭でのルールというような部分の定着であったりとか、毎年毎年の見直しであったりとか、また、そういうような関係機関との連携であったりとか、そういうところもしっかりしていかなければならないかなと考えております。

３０、３１ページは規範意識でございます。３１ページの一番上ですけれども、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というところは、年々上がってはきておるところなんですけれども、やはりこれが１００％にならなくてはならないというふうに考えております。今後も、その下の３１ページの下のところに、自尊感情とか、それから、家庭・地域・社会とのかかわりというのが３２ページにもございます。このように子どもたちの自尊感情を育てるとともに、やはり地域・家庭・社会とか、そういうところが連携して子どもたちを育てていく。また、子どもたちの居心地のよい、そんなような場所になっていけばと。そのようなためにも、コミュニティスクールであったりとか、そういうようなものの取り組みを進めていきたいと考えています。

３４ページからはコラムになってございます。「四日市の子（小６、中３）の今！」というようなところで、３４、３５というところには、この割合が高いということで書かせていただきました。やはり自己肯定感は小６よりも中３のほうが高いと。また、先生との関係性もよいというようなところがうかがわれます。それから、算数・数学が好き、よくわかると感じている子も多い。これは学力・学習状況調査の結果としても出てきているのではないか、本市の強みではないかというふうに考えています。また、それぞれの学習が将来社会に出たときに役に立つという、社会とのつながりというような部分の学習というか、そういうようなつながりというものを感じた学習も進んできているということがうかがえます。それから、一応家では授業や予習、復習など計画を立てて学習をしている子が多いということも言えます。ただ、先ほどもありましたように、その時間というところは課題というところです。最後に、小学生は地域行事に関心が高く、中学生はクラブに熱心であるというようなところです。

次に、学力向上に関する全市的な取り組みですけれども、肯定的な回答をした割合、ほとんど１００％ではあるんですけれども、中には９７．４％とか９４．７％とかというのがございます。これ、本来はやっていると思うんですけれども、学校に聞いてみたところ、やはりやっていないわけではないんだけれども、学校内での傾注であったりとか、学校内で総体的に見るとしていないほうかなというような回答でした。そのために、この９７．４とか、１００％になっていないというようなところでございます。

それから、３８ページでございます。４年間の経年変化と回答状況というようなところです。３８ページの一番上の丸でございます。習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫というようなところで、ここは肯定的な回答が１００％に近いと。特に中学校のところでは、２９年度から特に最も肯定的に回答したものが３５％以上伸びているというようなところでございます。このように、先生方の意識も変革してきているというようなところです。

それから、最後になりますが、４１ページ、今後の取り組みの重点というところで、主として学校において、主として教育委員会事務局においてというようなところで書かせていただきました。やはり１番に書かれた学力・学習状況調査の結果や趣旨を踏まえた授業改善というようなところは、学校において進めていく、あるいは度量性のある教師集団の中で、共通理解のもとに組織的に行っていくというようなところが重要になってくると思います。また、２番の『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック２』を活用し

た授業改善、やはりこのようなものが非常に有効的に学校の中で使われているということで、特に中学校の先ほどの示しました授業改善、学習過程を見通した指導方法の改善にもつながっているというふうに考えていますので、ここはさらに進めていきたいと考えています。

それから、あと３点ございますけれども、またごらんください。

主として教育委員会事務局としてというようなところで、最後になりますけれども、情報発信の充実というようなところ、このあたりは、やはり市民の皆様、それから、保護者にも情報発信をしていきたいと考えております。それから、学力向上にかかわる教育施策の整備というようなところで、学力向上アクションプランに基づき、確かな学力の定着のための授業改善というようなところと、今後、新教育プログラムというようなところへの準備段階というようなところで取り組みを進めていきたいというふうに思います。三重県教育委員会とも、さらに連携をして取り組みを進めてまいります。

長くなりましたが、以上でございます。

○葛西教育長　このことにつきまして、何かご質問、あるいはご意見をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○渡邉委員　学習時間の短さは、もともと短いまま低位でずっと、そういう傾向なのかな。どっちでしたかね。最近短くなってきているのか。

○高橋指導課長　１７ページのグラフをごらんください。よく小学生の場合は、１年生１０分、２年生２０分とか、６年生になったら６０分やろうというような、そういうような目安を立てているところもございますし、中学校やったら１年生は１時間、２年生は２時間、３時間というような、そういうような目当てを立てているところもあるんですけれども、このグラフを見ていただきますと、１時間から２時間というようなところから上は、だんだん増えてはきておりますけれども、それから、中学校も増えてはきておりますけれども、全国とも比べるとそのあたりはまだ追いついていないかなと。量と、もちろん質も大事だとは思うんですけれども。

○葛西教育長　宿題が少ないのかもしれませんね。

○渡邉委員　小学生ですとね。すぐ終わってしまうみたいな。

それから、読書量との関係は、これは顕著ですね。それは非常に、私はこれを見て感じまして。これはやっぱり相当、ほんとうに基礎的な能力を伸ばすもとですから、ここのところはほんとうに、それは子どもも忙しくなっているということもあるんでしょうけど、

ここはほんとうに大事な点だなと。全ての教科のスタンダードになっていますので、それは確かに、それだけ感じましたね。

○加藤委員　いきなり各論に入ってきましたけど、ほんとうに家庭学習というか、宿題のその中身の見直しが要るんでしょうね。何かドリルをやってこいとか、計算ばかりやっておるとか、漢字の練習をしてこいというのが昔の宿題のパターンの主だったと思いますけど、あの宿題の中身を一遍、今の時代に合った家庭学習なり、宿題の出し方というのも一度話題にしてもらって検討いただくと、もっと伸びるきっかけがつかめるのかもわかりませんね。何よりも家庭学習の重要性とか基本的な生活習慣・生活リズム、このあたりを、幾ら事務局で、あるいは学校で声を上げても、やっぱり保護者なり地域の協力がないといけませんので、そのあたりは、今ちょっと言葉も出ていましたけど、コミュニティーというのも１つでしょうし、保護者へどう具体的に訴えていくかというのはあまり今までメスを入れてこなかった。保護者へは、社協がやってくれますとか、ＰＴＡでお任せしますというようなことでしたけど、いよいよ宿題の中身とか、あるいは生活リズム、ほんとうに、２４時間営業のコンビニがあるわけですから、１２時に小学生を見かけるということは昔はなかったことですので、そのあたりも含めて、一度メスを入れる価値はあるのかなと思います。

○葛西教育長　宿題の中身の見直しというのは、どうでしょう、学校では意識はしているんですか。そのあたりはどうですか。

○高橋指導課長　それぞれ学校の宿題の出し方というようなところについては調査をしていないと思うんですけれども、四日市独自でやっております、春休みの学習の空白期間というか、それをなくすということで、今まで学びの一体化の小・中連携というような部分で各学校独自にやっておったんですけれども、それを今年度、今、校長会にもちょっと話を持っていきまして、市で一括してつくって、それを出すというような、６年生に全て配付すると。それは、今年も計画しているところもあると思いますので、取捨選択になるとは思うんですけれども、それを来年度は一応予算を取って、今おっしゃられたように、考えたりとか、調べたりとか、それから、学調の中で、この問題は子どもたちにとってほんとうに有効やなというようなものも入れながら、宿題のあり方みたいなものも考えていただけたらと考えています。

○加藤委員　当然、しっかりしたご家庭の子どもさんというのは、それなりに親も支援もできますし、そうじゃない家庭もたくさんあるわけで。だから、宿題と、次の翌日の授業

へのつながりのようなものが自然にできて、そして、無理のない範囲で、調べようと言うたって、それは家にいろんな、タブレットもあり、情報もたくさんある子どもさんもあれば、全くというのもありますから、ほんとうにどういった宿題の与え方がいいのか。私も答えはありませんけど、何かそこらは一度専門的にメスを入れていただくと、何かおもしろいものが見えてきそうな気がしますね。

朝読なんかで小学生も中学生もあれは始めてもらっていますけど、あれもやっぱり自然に、渡邉委員がおっしゃられた読書という環境へ。それでおもしろかったら、学校で１０分読んだら、家へ帰ってやっぱりまた読むんですよね。読みたくなる。だから読書も、私は以前から遊びやとよく言っているんですけど、好きな子は、電気消して早よ寝よと言われても、やっぱり隠れてでも読むんですよね。だから反対に、もう読書はとくとかなわんという子もあるでしょうけど、だからそんなふうで、読書にも、あえて本に親しむ機会を朝読という機会でここ数年来つくってもらっていますので、あれもいいことだと思いますので。

今日の全体的には、４１ページから今後の取り組みの重点ということで書いてもらってありますけど、やっぱり四日市が今まで探求的な学習であるとか、あるいは私は何よりも、分析的な国語というのか、きちっとやっぱり構造的に文章を読むという力をかなり国語の授業で変えていただいていますので、あの力は大きいのかなと思っています。大谷台小学校なんかが数年前からやってもらっているようなあのスタイルですよね。おそらく市内各所でああいう姿があるんだと思いますけど。ほんとうに算数の問題にしても理科の問題にしても、文が読めなかったら解けないわけで、それがやっぱり国語の力でしょうから。この間も北勢の教育長会議があって、私もちょっと指摘させてもらったんですけど、そこでもいろいろ述べてきたんですけど、やっぱり算数や数学の問題、問題というのは、ほんとうに主語、述語と条件が極めてエッセンスだけ示された文章ですので、でも、あれが、ＡとＢを結ぶ線上の点Ｏから垂直にとなってくると、それが具体的にどう描けるかというのは、なかなか子どもにとっては難題で、図で書いてあったら、これは直角やで二等辺三角形とこうやってできるわねと、こう行くのかわかりませんけど、そこに理解するのに文章からイメージが来ない。言葉の後ろにあるイメージが、あるいは立体が書けないという子がたくさんいますので、やっぱりあれは、四日市が取り組んでもらった国語の力とか分析的な国語というのは、今後もそういった授業なりを心がけていただいたら、結果として学調の点数は十分平均点を上回りまして、全国１位も近づくぐらいの勢いになってくるんだ

と思いますね。ほんとうによくやってもらっていると思います。

○豊田委員　大きなお話から、細かいところでご質問が２点なんですけど、１点は、１７ページ、１８ページにある、学習塾を含めての１日の学ぶ時間、確かに比例をしていますし、それから、読書ももちろん大事なことで、ただ、２時間以上読書をして３時間以上勉強している子がいるのかと思うと、これってどういう、体づくりはどうなっているんだろうとかというのが、ここが、多分正答率が高い子ってある程度決まってきているのかなとかと思うんですけれども、望ましいことではあるけど、中学にしても小学生にしても、３時間以上勉強しながら１日平均２時間以上読書ができるというと、これ、物理的にどうなのかなというのが疑問であったので、どうなのという点が１点と、それから、３２ページの先生はあなたのよいところを認めてくれていますかというところで、これは自尊感情はとても大事で肯定的、自己効力感が上がるのにも大事なところかなと思うんですけど、中学になると、最も肯定的であるとお返事している生徒が非常に、トータルとしては９割近いところなんですけど、このあたりというのは、年ごろも含めて難しいのかもわからないんですけど、より、だからこそ、この一番肯定的な回答が増えるようなご努力というか、そういうふうなことをどういう分析されて考えてみえるのかなというのを教えてください。

○高橋指導課長　１８ページの読書に関しては、３時間以上勉強して３時間以上読書をするというのは非常に難しいというふうに思いますので、今日は３時間ぐらい本を読んで明日は勉強とかという、その前に計画的に勉強するというところでちょっと高かったので、そこら辺は実態は、相関も調べていないのでわかりませんけれども、もしどなたか現場で知っている方とかあったらお願いします。

○廣瀬教育監　１８ページにございます中学校は、読書を見ていただくと、平均正答率の棒グラフですけれども、１０分から１時間の間のお子さんたちが一番多くなっている。これは中学生の生活の現実やと思うんですね。そんな読書をしっかりやっておったら、入試とかそういった勉強に追いついていかんというのがあって、その辺のバランスは子どもたちはとっているのかなと。優先順位を決めて持っていくのかなと思っています。あと、それを支えておるのが中学校の朝読の取り組みで、そこが本に触れる機会を保証して、それは自分のあいた時間で楽しんでいるというような実態があるのではないかと考えています。

　あと、自尊感情のところですね。３１ページのところについては、自分にはよいところがあると思いますかというのは、四日市市の課題であったんですけど、ここ数年回復しているというか、自尊感情とか自己肯定感を支える取り組みというのはかなり定着してきた

のかなと。特に中学校においては、キャリア教育というところはかなり浸透してきているのではないかと。ここで、将来の社会的自立も目指しながら、その子のよさをどう発掘していくかというのは、かなり中学校の中では、教育相談等もそういった視点を持って進めていることで、少しずつ伸びてきているのではないかなということは予想されますし、４日に高校展という、県立高校や私立高校の説明会みたいなのがあったんですけど、そこで市四商の校長先生も、中学校のキャリア教育、大分定着してきたなという話も保護者の皆さんに紹介されておったので、もっとやっていくべきであるとは思ったんですけど、そういった背景があるのかなと思っています。

○豊田委員　ありがとうございます。

ただ、先生が認めてくれていますかというところに着目すると、最もいいという回答に関してあまり伸びがなくて、もう少し伝えてもらったほうが子どもたちにとっていいのかなというような、ややというようなところを含めれば、もちろん９割には行っているので、すばらしいとは思うんですけれども、なかなか思春期にかかってきている子どもたちだからこそ、伝え続けてもらうということが大事かなと思ったりするので、少し。キャリアに関しては、将来の夢のところとかというふうな伸びが見られてきていますし、自尊感情も伸びてきているので、ご努力が実っている結果かなとは思うんですけれども、ならば、少しそういう、なかなか親御さんも、あなたのここがすばらしいよと褒めてくれる機会は少ないので、やはり他者から認められるというのは、特に教員とかは大きいかなと思うので。

○葛西教育長　ありがとうございます。

自尊感情、これは非常に大事と。だけれども、実際にはやっぱり、特に先生が一人一人の子どものよさをきちっと認める、それは子どもの行動であったり、言葉であったりだと思うんですけれども、そういうところはやっぱり事実をちゃんと指摘して、こんないいんだよという、そういう言葉がけがやっぱり一番大事なんだという、そういう豊田委員のご指摘だったかなと思います。やっぱりこれは非常に大事なことだと思いますので、またちゃんと伝えていきたいと思っています。

○松崎委員　先ほどの自尊感情に関しましても、中学校の場合は担任の先生に教育相談をしてもらいますが、それ以外にほかの科目の先生方とのかかわりという点で、いろんな先生がかかわってもらうときに認めてもらう機会も多いですし、それに、いろんな委員会など、中学校では人権委員だの、生徒会以外の合唱とか、いろんな体験をさせてもらえる中で、認めてもらうところが非常に今は多いなと感じます。そのあたりが中学校のいいとこ

ろなので、ぜひ、小学校もそのあたりも意識しながら、いろんな委員会をつくったり。意外に、私の経験だけなんですけれども、小学校では比較的平等主義というのがやっぱり強い感じがしまして、あまり生徒の前で、誰々ちゃん偉いねとかというのはあまり褒めないような気がするんですが、中学校になるとリーダーをつくっていくとか、みんなが活躍できる場をというのを意識されているので、小学校でもそのあたりを今後気にかけていただければ、さらに自尊感情もよく伸びるのではないかなと思います。

それ以外に、１つ質問なんですが、２１ページから、数学と理科に関する項目としてグラフでいろいろと分析などもされているんですが、今回国語に関する項目はないんですけれども、これは特にアンケートはなかったんですかね。

○高橋指導課長　これは、国語に関するアンケートはなくなりましたので、今回。質問事項がぐっと減って、また国語が出てくることも考えられますし、その分理科が入っているというようなところで。

○松崎委員　なるほど。わかりました。

あと、２つなんですが、最後の４１ページのいろんな重点内容なんですが、去年とほとんど同じようにきちっとまとめられているなと思ったんですが、１番の（３）の保護者への働きかけの充実を図るというところで、小さい黒丸の３点挙げられているんですけれども、このあたりも、保護者に何を働きかけていくのかというのがもう少しわかるように挙げていただけると、これ、啓発というのはわかるんですが、その次、補充学習の検討に関して、保護者はそれを知っていればいいのか、もっと子どもにかかわって見てやればいいのか、その後の見詰めも、何を働きかけて私たちは何をしてあげればいいのかがちょっとわかりにくいので、もう少し違う表現でしていただければというのと、その中で、基本的生活習慣について、今回いろいろと、スマホがどうとかあったので、それに関しては今回は、特に保護者に対しての働きかけの１つとして挙げる必要はどうなのかなと思いました。そのあたりもほんとうは一番基本となるところなので、朝の早起きやら何やらという、遅くまで起きているとか、そのあたりに関して、働きかけというのでここで挙げなくてもどうなのかなと思いました。

それと、その下のノートの活用についてなんですが、ここも、実は今回ノートに関して、子どもたちが、まだいま一つうまく活用されていないというのがありましたので、もう少し突っ込んで、何か具体策など、発達段階に応じたというよりは、先生方にもう少しわかりやすく指導できるような、何か取り組みのようなものを書いていただけるとわかりやす

いかなと思いました。

以上です。

○葛西教育長　どうもありがとうございました。

確かに各教科の数値的なところ、これは今四日市の場合は小学校が全国平均に届いてきている、あるいは少し出ている。中学校は全国平均の少し上をずっと保ってきているという、そういう状況があります。それを分析したところで、教育委員の先生方に意見をいただくと、やはり毎日の学校生活の中で、今までやってきてはいるんですけれども、さらに目的、何のために何をどうするのかというところを、もっとそれぞれ学校も意識しなきゃなりませんし、教育委員会も意識しなきゃならない。その一つが、要は宿題の中身の見直し、どういった宿題がいいのか、あるいは、生活リズムを保護者に働きかけていく場合はどういう手段で働きかけていくのか、あるいは、子どもと先生の関係、特に教員が子どもに言葉をかけていく、それの大切さだとか、それから、宿題であれ、あるいはノート指導であれ、それこそ、どういう狙いで指導をしているのかということを保護者にきちっと伝えていくのかとか、そういうところをやっぱり改めてしっかり見ていくようにという、それが学力にまたつながっていくというような、そんなご指摘ではなかったかなと思います。このあたりはいつも見直していかなきゃならない課題だと思いますので、ひとつよろしくお願いしたいなと思います。

○加藤委員　どんな機会にどう打って出るかというのは難しいですけどね。いろいろ思うところは、ＰＴＡの行事に、それこそ事務局の方が出前トークに入っていただくとか、あるいは今日我々が見せていただいた資料を、やっぱり保護者向けにどんどん広報活動をしていくとか、何か親がはっと思い、確かにうちの子、１０時には寝るようにしたら勉強も上がってきたわという感覚が親御さんにほんとうに伝わることが何より大事ですので、啓蒙活動、広報、そして、なかなか講演会を、各学校で皆さん行って集まる機会もないかもわかりませんけど、何かそういうところで出前トーク的に、小さな集団でいいので、４年３組の懇談会に事務局からも行って３０分しゃべるとか、そんなことをまずしていただくことが、指導主事さんは幾らでも話をしてくれますので、そういうところで直接保護者の方に訴えて情報提供していくということもいいんでしょうね。これは今まで四日市になかった手法だと思いますので、やる価値はございますね。

○葛西教育長　そうですね。今まで授業を見て指導、あるいは生徒指導上のことで、どう教員が指導をしていくかというふうな、そういう面で入っておりました。ただ、今指摘が

あったのは、保護者の方へどう入っていくのか、これもやはり入り方としては考えていかなきゃならないかなと思います。

○加藤委員　はっきりとこうやって答えが出ていますからね。学校だけではどうしてもならないという答えですから、そこへ少しメスを入れる。

○葛西教育長　そうですね。私も市Ｐ連の会長会、小学校、中学校の各学校の会長が集まる、２カ月に１回ぐらいそういう会長会があるんですけれども、そこに去年から、お時間いただいて、４０分ほど四日市の教育の現状について、この学調の結果だとか、あるいは四日市の施策だとか、今年であれば非常に暑かったですから熱中症対策の件だとか、そういうふうな話はさせていただくようになりました。これも続けていきたいなと思っていますので、これは一度、どうＰＴＡに話をしていくかというふうなことは考えていきたいなというようなことを思います。

○加藤委員　これ、保護者にいただいても、ちょっとこれは膨大ですから、これのほんとうにダイジェスト版を、３枚か４枚ぐらいに回数を分けて配付できるぐらいのことも考えていただくと。

○葛西教育長　今保護者には、学調と体育、体力もそうでしたね？

○高橋指導課長　はい。

○葛西教育長　それで、Ａ３の表裏で、そういうまとめたものでポイントになるようなことは出しておりますので。ただ、それは配りっ放しということになっていますので、だから、そのあたりも考えなきゃならないかなと思います。

○松崎委員　中学のそれぞれのクラスでの懇談というのは今まで行ったことがないので、そういう小さいものが今後あればいいなと思いますね。クラスごとのというのはないんですよ。

○加藤委員　１０人でいいですよね。１０人の中で３０分。

○松崎委員　小学校はそういう集まりぐらいはあるんですけど。

○高橋指導課長　例えば青少年育成室がやっている出前講座の中に、生活リズムとか、それからスマートフォンのというのがあるんですが、そこにはこの学調のデータも与えて、その中でそれをストーリーをつくっていただいて、生活リズムと学力のという相関関係であったりとか、そういうところは話はしていただいているんです。かなりの数も増えてきていますし、そういうところにコラボというか、そんな形で入っていく方法もあると思いますので、何かそこら辺は出前講座にかかわって考えてみたいなとは思います。

○加藤委員　今の指導課長の熱い思いをやっぱり直接保護者に伝える。そこが大事やなと思いますね。

○葛西教育長　それから、例えばＰＴＡの常任委員会なんていうのがありますよね。あるいは各学級のＰＴＡの委員さんが集まる機会、２カ月に１回、３カ月に１回あると。そういう会のときに、１５分、２０分いただいて、ほんとうにピンポイントで話をするという、そんなふうなことも、考えようによってもやれるんじゃないかなというようなことを思いますので。

それでは、全体の分析についてはこれで終わりにいたします。

午前１０時１８分　休憩

午前１０時２２分　再開

５　閉会

○葛西教育長　それでは、次回のことについて、教育総務課長から説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長　次回でございますが、１１月１４日に教育懇談会というところで、羽津北小学校で安全教育というところでご予定をさせていただいております。

定例会といたしましては、１１月２１日の水曜日９時半から、先ほどの１１月１４日は９時半からというところで、羽津北小学校でございますが、定例会は１１月２１日の水曜日９時半からこちらで、教育委員会室で開催予定でございます。よろしくお願いいたします。

○葛西教育長　以上をもちまして、第１５回教育委員会会議を閉会といたします。本日はどうもご苦労さまでございました。

午前１１時１６分　閉会